



九条70周年はらまち

「はらまち九条の会」ニュース No. 22

2007(平成19)年5月3日(木)発行

<1947(昭和22)年5月3日は、日本国憲法「施行」の日で国民の祝日> その半年前の1946(昭和21)年11月3日は憲法「公布」の日で、ちょっと混同されることもある。

映画製作協力券・入場券の販売、ご購入などご協力ありがとうございました!

『日本の青空』上映会に1,700名以上の市民が入場!

○3月17日試写会に220名 ○4月21日小高浮舟会館に850名

○4月27日原町ゆめはつとに650名、合計1,720名以上の方がご鑑賞

南相馬市小高区出身の憲法学者鈴木安蔵の業績を描いた劇映画『日本の青空』の、約一年間にわたる映画製作から上映会開催まで、皆様からさまざまなお力添えやご協力をいただき、特に共催やご後援をいただきました「南相馬市」「南相馬市教育委員会」「(財)南相馬市文化振興事業団」様にも、心より感謝申し上げます。お陰様で上映会は大勢の入場者を迎え、上映技術面で難点もありましたが、映画も好評で、意義ある、まずまず成功の上映会ではなかったかと思われまます。

▼4月30日付『毎日新聞』県内版コピー

鈴木安蔵が与えた影響描く 憲法起草の真相を実感 『日本の青空』南相馬で上映

日本国憲法起草に大きな影響を与えた憲法学者、鈴木安蔵(1904〜83)を主人公にした映画『日本の青空』がこのほど、鈴木のご郷である南相馬市小高区の浮舟文化会館で一般公開された。「日本の青空」上映南相馬実行委員会主催で、上映会では約350人の観客が集まり、補助



「日本の青空」上映会に詰め掛けた観客
—南相馬市小高区の浮舟文化会館で

席を用意するほどだった。映画は鈴木が中心的役割を果たした憲法研究会が発表した「憲法草案要綱」が、現憲法の基礎となる真相を描いている。上映会後、同区在住の会

社員は「押し付け憲法でないことがよく分かった。誇りとする郷土の先輩を学校で教えたらい」と感想を語っていた。5月には相馬市でも一般公開される。
【塚本弘毅】

○「日本の青空」上映会を開催して○

映画「日本の青空」上映南相馬実行委員会委員長 若松丈太郎

小高と原町の二会場をあわせた入場者数が1,700人を超えたとのことで、安堵しています。名ばかりの肩書きをまっとうできたのは、実行委員のみなさんのお力によるものです。ありがとうございました。

憲法の間接的起草者が鈴木安蔵さんであること、その鈴木安蔵さんが小高生まれの方であることが、『日本の青空』上映活動によって地域のみなさんにひろく知られることになったことは、おおきな収穫でした。これを契機に、憲法への関心がいつそう拡がり深まることを望んでいます。

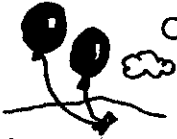
ただ、いくぶんか残念な思いだったのは、入場者のなかに十代や二十代の若い人たちが少なかったことです。無関心層への働きかけをどうするのか、これからの課題でしょう。

「日本の青空」を鑑賞して思うこと

- 憲法制定の真実が映画で分かった ○ 教え子が出演していてびっくり!
- 戦争のない日本は第9条のおかげと実感 ○ 憲法9条は絶対守るべきだ

○ 教科書では、憲法制定ぐらいでしか習わなかったもの。私の中憲法は試験の勉強内容でしかありませんでした。今回、「憲法ができるまで」について知ることができて、とても良かったと思います。現在の憲法には、当時の色々な立場の多くの日本人の思いに、「これからの日本のあるべき姿について」が詰まっているものであるということが、映画の随所に出ていました。一番びっくりしたのは、高校生役で教え子が出演していたこと。感動しました。(H. I. 女性)

(※五日市憲法の劇中劇は、相馬高校生と相高PTAや市民が出演し、熱演でした。)



○ 憲法ができるまでの過程を知り、戦争の無い平和な世界をつくらなければいけないと、つくづく思いました。病気、貧困、高齢者問題等で苦しみ、なおかつ戦争で苦しむのは愚かで恐ろしい事です。9条を大切に守り続ける事が使命なのではないかと思ひます。その為にも、自分の人達に「日本の青空」を是非薦めていこうと思ひます。(Y. B. 女性)

○ 今この瞬間にも世界のどこかでは戦争が行われ、多くの方が苦しみ、悲しんでいます。この映画を観て、今現在“戦争のない日本”があるのも、憲法第9条のおかげなのだと思ひできました。これからの未来を担う若い世代の方が見るべき映画だと思ひます。(双葉高校2年 加茂彩花)

○ 『日本の青空』を鑑賞した時に、三つの事が判った。それは、日本国憲法誕生の真相、と同時に女性の人権の件と、鈴木安蔵さんが南相馬市小高区出身の憲法学者だということが判りました。憲法研究会のメンバー中に岩淵辰雄さんや森戸辰男さんは判っていたおりましたが、鈴木安蔵さんがメンバーの一人とは知らなかった。それも基礎づくりの立役者である事を映画を鑑賞して判った。又女性の人権の件で安蔵さんの奥さんが発想された場面があった。以前は社会党の加藤しず江さんの発想だと思ひていましたがこれも驚きである。また米国の支配下であるGHQ民政局と日本国内閣とのやり取りは日本人の誇りを憲法に託した事が印象に残った。去る29日NHKのスペシャル放送で日本国憲法誕生での番組は、『日本の青空』で鑑賞した同様の事が放送されたことで再認識したところです。憲法第九条は絶対守るべきだ。(匿名希望)



○ 憲法改正手続きを定めた国民投票法が参院で14日可決された。十分に審議がなされないままに。日本が世界に誇れる憲法九条のどこがいけないのか。どこを改正(改悪)しようとするのか。今、日本は危険な方向へ流れているように思えてならない。現在の憲法は郷土が誇る憲法学者・鈴木安蔵先生が中心となり作成した草案が礎となっている。この憲法を守り、子どもたちを戦争に巻き込んではいけぬ。強くそう感じた。(太田英成)



鈴木安蔵「憲法三十年」より

○ 原町の会場は映画にも、観客にもきのどくでした。会場に合わせて音量をあげたため、前の人は頭がいたく、後方の席の人は音がわれて、残響が出てききづらかったです。テロップも前の人や目のいい人には読めたけど……。ごらく映画ではないので、もっと主題を明かすにいてほしかったです。予備知識のある世代にはある程度理解できても、GHQなんてはじめてきくような人には不親切でした。夜間の設定で、年配者は敬遠した人も多かったです。(早坂節子)

○ 知らないうちに法律ができている！などということがある。昭和20年、日本が死の淵から作り出した憲法がこれまで国民を守り、育ててきたことに間違いはない。都合のいい責任のない捉え方で、権利や主張ばかりが前面に押し出されてしまっている昨今、この映画を観てタイトルの意味がわかった。私たちは、迎えようとしている近い将来について考えなければならない。そして、多くの若い人たちに映画を観ていただいて、「これからの青空」を考える機会をつくって欲しいと心から思った。(佐藤祐子)



相馬市でも「日本の青空」上映会 <入場券 大人1,000円、高校生以下800円>

○ 5月27日(日) 会場: 相馬市 はまなす会館

① 午前10時30分～ ② 午後1時30分～ ③ 午後6時30分～

小高や原町でお見逃しの方、もう一度鑑賞されたい方、協力券でも勿論入場できます。鈴木安蔵の母校の相馬高校生、保護者や市民が出演しています。

